

君の名は。4（聖地裏解説）

大甕神社の役割



しくみ

■ 諏訪湖中央 232.400km - 大甕神社本殿 - 湯殿山神社御神体岩 232.400km
■ 春宮大門 232.400km - 大甕神社本殿 - 湯殿山神社御神体岩 232.400km

■ 諏訪湖中央 232.405km - 大甕神社拝殿 - 月山神社 232.405km
■ 春宮大門 232.405km - 大甕神社拝殿 - 月山神社 232.405km

勝頂角

大甕神社

星神の天津甕星（天香香背男）を封印していると言われる神社。神域を成している宿魂石は、天香香背男が化したものと伝えられている。祭神は天香香背男を封印した倭文神の武葉槌神で、どちらも物部系のようにです。倭文とは倭国の織物のことで「しとり」、「しつり」、「しどり」と読み、日本古来の文様を持つ素朴な織物「倭文織（しつおり）」という意味。

武葉槌命は日本で織物を始めとする組織的な産業を最初に起こした神で、知恵の神でもあり、様々な生活の術を東日本に広め人々の生活を向上させたそうです。日本書紀の葦原中国平定にのみ登場し悪神とされていますが、全国の星神社や星宮神社の多くは天香香背男（天津甕星）を祭神としているので、天孫族に滅ぼされた出雲系の神と考えられ、葦原中国平定に最後



まで抵抗した神ということで諏訪神の建御名方命と同一神とされることがあり、また北極星を神格化した妙見菩薩の化身とされることもあります。

また、鹿島神宮誌によると天香香背男一族は駿河国の富士山麓の海岸にいて、天孫族の発展とともに北へ北へと駆逐され常陸国に居を構えたそうです。天香香背男は東国の陸地や海上に一大勢力を持っていたとい

います。
茨城県日立市大みか町6丁目16-1



左負角

諏訪湖中央

諏訪明神は、神代より「龍の化身」であるとして拾数体の龍頭がつくられた。諏訪大明神画詞の中に「元寇の役即ち文永十一年(1274年)弘安四年(1281年)再度にわたる蒙古軍の襲来に際し、上社の神苑に巨竜立ち昇り西方に向かって飛翔し博多湾上に蒙古の軍船を撃滅し給う」という記述がある。

1986年(昭和61年)、国土地理院のソナーによる湖底地形調査では、湖底に一边が25mとされる菱形の“物体”が発見された。これが信玄の水中墓ではないかとされ、信州大学、読売新聞、日本テレビなど複数の団体が10数年にわたって調査を行った。電磁波探知機により墓標のような立体が確認されたとも報道されたが、最終的には謎の菱形は湖底の窪地の影であるとの結論が出された。しかし、問題の菱形が自然にできたとは思えない程はっきりとした形をしており、湖底は泥が深く目視による実地調査が困難であることから、水中墓説を支持する声は現在でも多い。菱形の頂点が東西南北を指していることから自然の造形物とは考えにくいとされている。



春宮大門

下社春宮の一の鳥居。鳥居には諏訪大社の神紋である梶の葉紋を模した注連縄がかかっている。



右負角

月山神社・月山山頂

祭神/月読命 神仏習合により月山神の本地仏は阿弥陀如来であると考えられるようになったが、八幡神の本地仏である阿弥陀如来が、月読命になぞらえられた月山神の本地仏となったのは東北的な特性であると言え、浄土教の浸透が阿弥陀如来信仰を月山に導いたと思われる。室町時代まで月山の神は八幡大菩薩とされていた。

社伝によれば、崇峻天皇の第3皇子である蜂子皇子が推古天皇元年(593年)に羽黒山を開山し、さら

に同年、月山を開山して当社を建立したのだと言う。蜂子皇子は土地の人たちの面倒をよく見て、悩みや苦しみに耳をかたむけたことから「能除仙」と呼ばれるようになったとされる。しかしながら、史料から考察する限り、開祖である能除仙と蜂子皇子が同一人物であると言う根拠は無い。また、磐舟柵が3度目に修理された文武天皇4年（700年）から出羽郡が建てられた和銅元年（708年）の間に越国以北の夷征が行われたが、出羽の蝦夷征討が開始される前に出羽三山へ登ることは出来なかったと思われる。

『新抄格勅符抄』の宝亀4年（773年）10月符では月山神に神封2戸が寄せられているが、これが月山神の史上における初見である。『日本三代実録』には月山神の記事が度々登場し、神階の陞叙を受けるなどしている。



湯殿山神社本宮 御神体岩

祭神/大山祇神 大己貴命 少彦名命

湯殿山神社は、本殿や社殿がない点に大きな特徴があるが、もともと湯殿山は山岳信仰の対象であり、山自体に神が鎮まるものとして、人工的な信仰の場をつくることは禁じられてきたという。明治以前、三山において神仏習合の信仰が盛んだったころ、羽黒山は観音菩薩（現在）、月山は阿弥陀如来（過去）、そして、当時三山のうちに含まれていた薬山や薬師岳は薬師如来（未来）とされた。一方、湯殿山は「三山」というよりもそれらを超えた別格のものとして、大日如来とされていた。こうして、出羽三山においては、観音菩薩・阿弥陀如来・薬師如来の導きにより現在・過去・未来の三関を乗り越え、大日如来の境地に至って、即身成仏を達成するという「三関三渡」の修行が行われることとなった。この修行においては、裸足で御神体（湯殿山）に登拝することが、大日如来と一体になる行為とされ、非常に尊ばれた。※湯殿山神社には、他の神社にはある、本殿、拝殿は存在しない。

山形県西村山郡鶴岡市田麦俣六十里山7



備考

諏訪湖と月山を支配下におく大甕神社。大甕神社が封じている天香香背男と諏訪神の建御名方命が同一神という説があるが、まさに左負角は諏訪湖。春宮大門もピンポイントでぶつかることに信憑性がある。大門は諏訪湖に向かっての鳥居でもあるのかもしれない。大甕神社の「拝殿」にコンパスの針を置くと月山山頂にある月山神社本殿に、少し離れた「本殿」に置くと湯殿山神社の御神体岩にぶつかる。

大甕神社が建御名方命を封じているとすれば、筆者の推測どおり、このしくみ（頂角45度位の三角形）の勝ち頂角、負け角の考え方は当たっているといえる。

大甕神社の祭神は、日本古来の文様を持つ素朴な織物「倭文織（しつおり）」神の武葉槌神。アニメ映画「君の名は。」が、なにか真実を伝える映画だとしたら。出てくる主人公は「三葉」、母の二葉、祖母の一葉。伝統の織りを伝える神社の娘たち。武葉槌神をあらわしたのか。諏訪湖の星神（流星・竜星・竜族・ナーガ族・出雲系）建御名方命と封じた武葉槌神の関係をベースにしたアニメ。

内容はとても良かった。だが、主人公の二人が会う四ツ谷の須賀神社は出口王仁三郎の大本教東京宣教の拠点。さらに現代では創価シティ。そして、東京タワー、ドコモタワー、一行院、聖徳記念絵画館…これらをアニメ聖地化し、多くの人の気を集め、「しくみ」により、巨悪たちはさらに気を引き寄せ強くする。このアニメも、結局はお金で支配され、巨悪の手の内となっているようで悲しみは増す。





- 諏訪湖中央 232.400km - 大甕神社本殿 - 湯殿山神社御神体岩 232.400km
- 諏訪湖中央 232.405km - 大甕神社拝殿 - 月山神社 232.405km
- 冠島 148.12km - 熱田神宮 - 諏訪湖 148.12km
- 出雲大社本殿 356.72km - 潮崎本之宮神社 - 諏訪湖中央 356.72km

国議りの舞台背景が見えてきた。

(2018.3月修正)